



**DF鈴木祐輔**  
『人望厚き闘将』

1982年5月19日生。175cm  
/72kg。武南高→駒大→ロ  
ッソ熊本

**04** 年度の主将を務めたCB。174cmと決して長身ではないが、空中戦でことごとく競り勝つヘディングが武器だ。2冠を達成したこのシーズン、3連覇を達成した総理大臣杯決勝を累積警告で出場できなかった鈴木は、インカレ開幕前に右足首を骨折する。しかし「祐輔を決勝へ」を合言葉にチームが団結、鈴木自身もリハビリに腐心し、驚異的な回復で決勝のピッチへ。3年振りとなった冬の頂点は、人望厚き闘将あつての賜物だった。



**DF小林亮**  
『ミスター・ホリバント』

1982年9月12日生。170cm  
/67kg。武南高→駒大→柏

**サ** イドなら左右、S B、SHを問わず安定したパフォーマンスを発揮するポリバレント。左右ともに正確に蹴れるキックを売りとし、プレーのクリーンさにも定評がある。ハイライトは04年度インカレ。決勝を前に、鈴木祐輔の先発起用を、中後とともに秋田監督に直訴したのだ。「リハビリで頑張っている祐輔を見て、絶対決勝のピッチに立たせてやりたかった」。仲間のことを思い、仲間のために闘う。彼もまた駒大魂の継承者だった。

**大** 学デビュー戦は3年時のリーグ戦最終節の国士館大戦。決して早い公式戦デビューとはいえないがそこからの宮崎の活躍は凄まじかった。3年で迎えたインカレではレギュラーの座を掴みチームの優勝に貢献し、4年時のリーグ戦ではMFながら10得点をマーク。持ち前のパスセンスと正確無比のFKでその年のリーグ戦、インカレ優勝の立役者となり、有終の美を飾った。3年の終わりに頭角を現した男は気がつけば駒大に欠かすことのできないキープレイヤーへと変貌を遂げていた。



**MF宮崎大志郎**  
『遅咲きのファンタジスタ』

1983年4月21日生。174cm  
/65kg。大津高→駒大→ロ  
ッソ熊本

**や** わらかいボールタッチ、スピードに乗ったドリブルからのフェイントや切り替えして相手を抜き去り、自ら得点も狙う攻撃的MF。04年度インカレではベストMF賞に輝き、翌年与えられた背番号は10。大きな期待を背負った大学ラストシーズンだったが度重なる怪我に苦しめられ、総理大臣杯、リーグ戦の終盤に戦線離脱を余儀なくされた。だが、インカレで完全復活。決勝戦も90分間ピッチに立ち、インカレ2連覇に貢献し、苦しんだシーズンの有終の美を飾った。



**MF鈴木亮平**  
『変幻自在のドリブラー』

1983年7月30日生。  
177cm/67kg。丸岡高→駒大→山形



**DF筑城和人**  
『鉄人サイドバック』

1984年8月14日生。171cm  
/66kg。清水商高→駒大→名古屋

**03** 年のリーグ開幕戦、筑城は1年生で唯一、開幕スタメンの座を勝ち取った。そして06年のリーグ戦が終わり、4年間最多出場のタイトルを獲得。4年間出場し続けた鉄人筑城の活躍はチームに幾多のタイトルをもたらした。左SBを主戦場とする筑城の最大の武器は粘り強いディフェンス。相手の攻撃の目を摘み、さらに攻撃に移るとタイミングのよいオーバーラップで攻撃にアクセントをつけた。影のMVPといっても過言ではないくらい4年間の筑城の活躍はチームを支え続けた。



**FW巻佑樹**  
『ゴールに突き進む重戦車』

1984年6月24日生。182cm/  
75kg。国見高→駒大→名古屋

**決** して技術が優れているプレイヤーではない。だが巻は人々に感動を与える何かを持っている。鋼のような肉体を武器に前線での起点となり、空中戦で強さを発揮し、前を向けばゴールに向かって突進する。さらに守備でも前線からの激しいプレスで相手に襲い掛かる。がむしゃらで最後まであきらめないプレースタイルが見る人に感動を与えるのだ。巻が一番存在感を発揮した試合が06年インカレ決勝。右足ボレーで先制点を奪うと、利き足『右頭』で追加点。インカレMVPを受賞し、全国に巻佑樹の名前を轟かせた。